

こどもが まんなか

# いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信  
No.8 令和6年3月8日発行

発行・編集  
岩手県教育委員会事務局学校教育室  
(いわて幼児教育センター)  
本通信は岩手県 HP からダウンロード  
できます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

## きらきら☆いわてっこ

「対話による問題解決」「自分ごととして捉える経験」が小学校にもつながる



発表会の器楽演奏で取り組んだ「たらりら」が子どもたちは大のお気に入り。盛岡バージョンの歌詞も覚えました。マップもみんなで作成しました。

そこで、今年の卒園遠足は「たらりら遠足」にすることに決めました。

路線バスに乗ってバスセンターまで行き、赤レンガの旧岩手銀行を見て、中の橋を渡って盛岡城址公園まで行きます。もちろんおやつは南部せんべいです。大きな岩手山は見えるでしょうか・・・

子どもたちはドキドキがいっぱい！！

## 5歳児

「たらりら遠足」に向けて何度もミーティングを重ねました。この日は【バスの乗降への不安について】でした。保護者から離れて、自分だけで公共交通機関を利用する経験は、どの子も初めてです。「みんなで手をつないだらいい」「だけどみんなで手をつないだら車道にはみ出しちゃうよ」不安は、考えることと話し合うことで解決に向かいます。みんな真剣に考え合い、話し合いました。子どもたちの話をホワイトボードにまとめる保育者も真剣に向き合います。

「小学校に行ったときの相手とつないだらどう？」A児くんの提案に、みんなの顔に笑顔が広がりました。「いいね～」

不安がどんどんワクワクに変わっていきます！！



卒園遠足の1番の“ねらい”は、友達や先生と園生活最後の楽しい思い出を作ることですが、その他に、公共のマナーや交通ルールを守りながら、社会生活と関わることも大切な“ねらい”のひとつです。これは、自分が生活をする中で、たくさんの人たちの助けがあるということを知り、その人たちと関わることで、社会とのつながりを意識するということです。そして今回は自分の住んでいる街を知り、よさを味わうことも大きな“ねらい”になりました。

普段は保護者の運転する車に乗って移動することの多い子どもたちですが、今回は公共交通機関とジャンボタクシー、それに自分の足で歩いて移動しました。子どもにとって無駄な経験なんて一つもありません。こうやって乗り物に乗るんだ！と知ることのも一つの経験ですね。集団で誘導されたとおりに行って乗り物に乗るのではなく、「自分で」乗る、子どもたちがそう感じる事が大切です。

自分の足で歩き、自分の目で見て、耳で聞いて、匂いを嗅いで、初めての体験や嬉しい発見、最後まで頑張る気持ち等、たくさんの経験があった卒園遠足、子どもたちにとって学びの多い充実した1日となったことでしょう。

※この事例は、ぜひ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の各項目の最終段落「小学校生活において…(略)」に記載されている姿と照らし合わせてごらんください。

(保育所保育指針解説 P62～ 幼稚園教育要領解説 P54～ こども園教育・保育要領解説 P51～参照 )



# 目的をもって遊ぶ楽しさを味わうことは・・・

「自分でやりたい！」と自我が出てくる乳幼児期に、自分の中から生まれる「やる気」を、受け止め、認めていくことで、乳幼児期から目的をもって取り組もうとする気持ちの根っこが育まれます。

時にはうまくいかないことに癪癪を起すこともあるかもしれませんが、その葛藤も必要な経験です。

側にいて見守ってくれる大人の温かなまなざしと、さりげない手助けが子どもにとっては大きな力になります。「自分でできた！」の積み重ねが自己肯定感を育て、目的をもって取り組もうとする気持ちを育てていきます。



幼児期の終わりまでに  
育てほしい姿

「ポテトもほしい？」ハンバーガー屋さんは大忙しです。忙しい時は、本当は私の手が便利なのだけれど・・・  
トングも上手に使えるようになりました。

## 2歳児



## 4, 5歳児

「もうすぐ出来上がるね。」「うん！楽しみ！」  
ふたりには、チョコレートが完成したら、『廊下に開店したジュース屋さんで一緒に売りたい』という目的がありました。

早く売りたい気持ちと、チョコレートを本物らしく作りたい気持ちを、お互いに伝えあいながらじっくりと取り組んでいました。

(1)健康な心と体
(2)自立心
(3)協同性
(4)道徳性・規範意識の芽生え
(5)社会生活との関わり
(6)思考力の芽生え
(7)自然との関わり・生命尊重
(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
(9)言葉による伝え合い
(10)豊かな感性と表現

今回のテーマは、主にこの育ちにつながっていきます。

## 【保護者との信頼関係を深める園と小学校との連携】



ワンポイント  
アドバイス

### ● 保護者の不安

保護者 「トイレの使い方のことなのですが、うちの息子は家では座って使用しています。園でもそうしているようですが、小学校に行ったときどうなのでしょう。立ってできるのか心配です。」

保育者 「そうですね。今度小学校に交流に行きますので、確認してきますね。」

保護者 「子どもはあまり不安がってはいないようですが、親はいろいろ細かいことが気になってしまいます・・・」

### ● 小学校との連携

幼保小交流会の時に保育者は、小学校の先生に保護者からの不安を伝えました。すると副校長先生が、校長室、職員室、教室を案内してくれた後に、トイレにも案内してくれました。そして「ちょっとやってみようか」と言ってトイレ体験をさせてくれたそうです。子どもたちは帰ってから「トイレ大きかった。」「立ってもできた。」「前だけ下げられるよ。」とそれぞれの感想を伝えたようです。

不安感に寄り添ってくれた小学校の先生に感謝ですね。

保護者にとっては、保育者がすぐに対応してくれたことで、園への信頼を深めることにつながったことはもちろん、小学校への信頼も深まったのではないのでしょうか。小学校と園が普段から伝えあえる関係を構築しておくことが大切ですね。

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちのウェルビーイング(幸福)をめざしていきます。